

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4-32 (電話) 011-871-3615		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月17日	評価確定日	平成19年8月6日

【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤17人, 非常勤 人, 常勤換算10.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	27,000円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / ○無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (7月2日 現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3	要介護2	8		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5		要支援2	1		
年齢	平均 82 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大屋医院、新札幌循環器病院、さくら歯科、白石脳神経外科病院、北郷整形外科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

アクセスに恵まれた住宅街に立地し、地域に根ざした介護福祉事業を念頭に置き、平成15年11月開設、地域住民との交流を重視したホーム運営を実施している。日常的な近隣住民との付き合い、町内会行事など参加のほか、小学校とはボランティア職業体験の実習として、またホーム主催の夏祭りの招待などと地域への貢献にも努め、密接な双方向の交流が実践されている。また入居者の日常生活はできることを皆で協働しながら、穏やかでゆったりとしたペースを保っている。職員は、利用者一人ひとりが希望する暮らしの実現に向けて柔軟に、かつ温かい配慮を持って対応し、ドライブや、果物狩りなど外出の機会も多く提供している。医療機関との協力体制も充実し、利用者、家族の安心感や信頼は厚い。管理者を中心に職員は、自らの質の向上に熱心に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、余裕ある職員数の増員の検討、厨房部の換気、排泄リズムの的確な把握など5項目について挙げられていたが、全項目について、全職員が課題解決に取り組み、改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は、評価の意義を理解しており、職員一人ひとりが評価に取り組み、ホーム全体でまとめあげ、具体的な気づき、取り組み項目などに結び付けている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族、地域の代表、包括支援センター職員の出席で、18年8月から2ヶ月毎に開催している。会議においてはホームの概要、活動、行事などの報告やメンバーからの要望、意見交換を行ない、事業所の啓蒙やサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「意見箱」の設置や、外部の苦情窓口の明示、案内をしている。ホームとして家族の心情を受け止め、推し量る配慮を心掛けており、意見、要望など言いやすい雰囲気作りに努めている。また2ヶ月に1度家族会が開催され、意見を表出しやすい機会を設けている。それらの意見は適切にホームの運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会行事に参加し、地域の2校の小学校とは相互交流を行なっている。消火訓練には地域の理解、協力も得られている。またホーム主催のいずみ祭りには地域住民を招待するなど、地域に開かれたホーム運営を実践し、近隣住民が気軽にホームを訪問してくれるような地域との連携関係が築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「尊厳ある暮らし」を掲げ、開設当初より地域住民との交流を大切に捉えたケアサービスの提供に努めている。	○	グループホームの本質を理解し、地域密着型サービスに取り組んできているが、運営の拠り所となる理念についてホーム全体で話し合い、地域との関係性を重視した項目を具体的な言葉として盛り込み、より分かりやすい運営理念になる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で、ホームの理念を踏まえてのケアサービスについて、全体会議などで具体的に掘り下げた話し合いをしており、日常のケア場面での理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事に参加し、地域の小学校2校とは相互交流を行なっている。またホーム主催のいずみ祭りには地域住民を招待するなど、地域に開かれたホーム運営を実践している。近隣住民が気軽にホームを訪問してくれるような関係作りに日頃から取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、評価の意義を理解しており、自己評価に対しては職員一人ひとりが取り組み、ホーム全体としてまとめあげ、具体的な気づきや取り組み事項などに結びつけている。	○	前年度の改善課題については、その改善に向けての取り組みを行なってきた。今後は更に評価結果を踏まえて、改善計画シート（書）などを利用し、事業所全体で共有しながら、目標を立てて計画的な取り組みを期待したい。

札幌市 グループホーム いずみの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年8月から2ヶ月毎に開催している。家族、地域の代表者、包括支援センターの職員の出席で、ホームの概要、活動などの報告のほか、メンバーからの要望や意見の交換を行ない、事業所のサービス向上に積極的に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の課題の解決に向けて、市や区の担当者とは協議し、その都度適切な支援を得ており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。また管理者はキャラバンメイトにも積極的に協力し、講師依頼も受託するなど行政との関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を掲載した「お便り」を作成し、利用者個別のコメントを書き添えて送付している。金銭管理についても明らかな報告を行なっている。家族の訪問時には利用者の心身の状況や暮らしぶりなどについて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置され、外部の苦情窓口等の明示がされている。2ヶ月に1度家族会を開催し、意見を出しやすい機会を設けている。家族の心情を受けとめ、推し量る配慮がされており、意見、要望など言いやすい雰囲気であり、適切にホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交替などによる利用者へのダメージを最小限にとどめるために、管理者を中心に職員はきめ細かな配慮を行なっている。日常的にユニット間の交流はあり、利用者にとっての馴染みの関係で対応がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、全体会議などでの学習に加えて、日常ケア場面においては管理者、リーダーからの適切なアドバイスが得られる状況である。さらに資料や文献、研修報告書は全職員が共有できる体制になっており、職員の育成に熱心に取り組んでいる。	○	○ J T 中心の職員研修であるが、今後更に職員の段階に応じた研修計画を立て、ローテーションなどの調整を行ない、ホームとしての外部研修により積極的な取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市、区の管理者会議に出席し、研修や情報交換を行なっている。職員が他の事業所を見学するなどホーム間の相互の交流も行なわれており、ケアサービスの向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には事前にホームを見学してもらったり、ホーム側から家庭に出向くことで関係を作りながら、安心感や納得をしてもらえるよう努めている。家族からは本人のバックグラウンドを聞き、できる限りリロケーションダメージを少なくする方策を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬い、生活上の様々な仕事などを一緒に行ない、楽しみながら暮らせる場面提供を心掛けている。職員は利用者からねぎらいや励ましを受けることもあり、喜怒哀楽をともに感じながら家族的で親近感ある相互の信頼関係を構築している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動や表情などから思いを汲み取り、一人ひとりの希望や意向の理解に努めている。生活記録には職員それぞれの目線での気づきが記入され、本人本位の支援に活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はアセスメントの工夫を重ね、現在はセンター方式を取り入れている。職員2～3名のチームで取り組み、家族の協力も得ながらモニタリングやカンファレンスを実施し、利用者一人ひとりに即した個別性ある介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、3～6ヶ月の期間設定はあるが、状態変化には随時の見直しを行なっている。また毎月のカンファレンスでは利用者一人ひとりの状況について検討が実施され、詳細な評価や見直しに取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況や要望に応じて、病院受診の送迎など必要な支援をしている。近隣住民の認知症ケアについての相談も受けることもあり、事業所の多機能性を活かして柔軟な支援提供を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科や整形、総合医療の協力病院を確保している。また内科医はホームドクターとして、月2回の往診診療のほか、相談や他専門医への紹介など良好な関係を築いており、利用者個々のニーズに合わせた医療支援を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合には本人、家族の意向を踏まえて、医師との十分な話し合いを持ち、可能な限りホームでの生活継続の支援を行なっている。	○	すでに利用者が重度化した場合の支援を実施してきているが、ホームとしての指針を文章化し、職員間の検討を十分に行ないながら、早い段階からの本人、家族との話し合いに取り組み、関係者全員での方針の共有に取り組みしてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者の尊厳ある暮しの提供を心がけ、日々の対応は親しみを持って利用者のプライドを大切にしたり、さりげない介助を行なっている。	○	生活記録ファイルや面会者名簿などの個人情報について、誰もが簡単に見ることができないよう管理、取り扱いの工夫を望みたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが業務中心の介助ではなく、本人のペース、気持ちを大切に利用者には焦点を合わせた対応であり、自由にゆったりとした時間を過ごせるよう、本人本位のケアサービスの実践に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に食材の買い物に出かけ、食事作りはそれぞれの希望や力量に応じた手伝いを行なっている。職員の食事支援はさりげなく、家庭的な会話の中でゆったりと楽しい食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴支援を行なっている。利用者の希望や状態を把握して、足浴や仲の良い人同士の入浴を勧めるなどタイミングや言葉掛けなどの工夫をして、利用者の希望に添う支援を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や状況を念頭に置き、家事や庭仕事、買物など一人ひとりが達成感や満足感を味わえるような場面提供を実施している。自らの持つ力を自然な形で発揮できるよう、また気晴らしになるような数多くの役割やアクティビティを用意し、利用者に働き掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買物のほか、行事計画を立てイチゴ狩りや温泉ツアーなどへも、車椅子を積んで出掛けており、利用者のその時々々の状況に応じて、気分転換や楽しめる機会を積極的に提供している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間（19時～翌朝8時）は防犯上の理由で施錠しているが、日中帯は施錠していない。外出傾向の利用者も居るが、動向の把握や見守りを行ないながら、利用者の安心で自由な暮らしの維持に努めている。		

札幌市 グループホーム いずみの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火避難訓練は年に2回、近隣住民の参加協力を得て、実施している。火災発生時マニュアル、地震マニュアルが整備されており、地域の防災運動会に参加と防災への意識を持ち、職員間では災害時のシュミレーションの話し合いも行なわれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事量を把握し、利用者の好みや新鮮な食材により、バランスを考慮した献立を作り、一人ひとりの状況に合わせた支援を行なっている。定期的にカロリー、栄養バランスの確認を実施し、その後の献立に活かしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは利用者の身体状況に配慮した工夫がされ、季節の装飾や写真、利用者の作品が飾られており、季節感ある家庭的な居心地良い空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具や小冷蔵庫、希望の寝具、大切にしている神棚など、それぞれの好みや馴染みの物品などが持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるよう生活スタイルに合わせての用意がされており、細やかな配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。